

# 長崎労働局長がベストプラクティス企業を訪問しました

長崎労働局（局長 こじょう ひでき 小城 英樹）では「過重労働解消キャンペーン」の一環として、11月18日（金）長時間労働の削減に向けて積極的に取り組む企業（※ベストプラクティス企業）への職場訪問を実施しました。

今回は、長崎市魚の町3番27号に本部がある**社会福祉法人長崎厚生福祉団**の介護老人保健施設シンフォニー稲佐の森Ⅱを訪問し、千々岩 ちちわ もとし 源士理事長から長時間労働の削減に向けた取組についてご説明をいただきました。

長崎労働局では、今後も長時間労働の削減に向けて、このような取組を広く紹介していきます。

※ ベストプラクティス企業とは、地域において長時間労働削減に向けて積極的に取り組んでいる企業をいいます。

## ○企業の概要

【社会福祉法人長崎厚生福祉団】

業務内容：社会福祉施設

労働者数：674名

本社：長崎市魚の町3番27号

設立：昭和54年7月

長崎県内に14拠点で34の事業を展開

## ○長時間労働削減等に向けた主な取組内容

1. 採用・定着・育成への積極的な取り組み
2. ITC機器の導入による業務効率化
3. 女性活躍推進のための取り組み
4. 腰痛防止のための対策



## 取組の概要

社会福祉法人長崎厚生福祉団より、長時間労働の削減等のための取組について説明を受けました。

### ①採用・定着・育成への積極的な取り組み

法人内に職員の働きやすさを追求するため、課題をボトムアップで解決するためのプロジェクトチーム(「ひとづくりプロジェクト」)を発足しました。これまでにプロジェクトチームにおいて、時間外労働ガイドラインの作成や長期休暇の導入等を検討してきました。

現在は「新卒採用チーム」「働き方改革チーム」「対馬地区定着・採用チーム」の3チームが活動しています。さまざまな取り組みの結果、離職率が10%を下回り、2020年度に採用した新卒者の離職はゼロとなりました。

また、新卒無資格者への研修や、介護支援専門員、介護福祉士の勉強会等各種研修を実施し、人材の育成に努めています。

### ②ITC機器の導入による業務効率化

電子記録システム(ケアカルテ)を導入し、紙媒体からタブレット等の記録形式に移行しました。音声入力も可能となりました。また、入所者の見守りシステム(眠りスキャン)を導入することにより、夜間巡回回数を減らすことができました。これらのシステムは作業を行っている労働者からも好評であり、業務負担軽減につながりました。(直近5年間は、時間外労働の平均は3時間台となっています。)

### ③女性活躍推進のための取り組み

施設内保育施設の設置、育児短時間勤務制度、復職後一定期間6時間の短時間勤務を保証する制度等を設け、女性職員の育休取得率は100%、復職率も100%となっています。2020年1月には「長崎女性活躍推進企業大賞」を受賞し、2021年10月には「長崎県誰もが働きやすい職場づくり実践企業認証制度」(略称：Nぴか)の五つ星認証を受けています。

### ④腰痛防止のための対策

腰痛防止対策として、一部事業所に腰痛予防のためのリフト、移動乗用床走行リフト、浴室内リフトを導入しました。また、長崎エリアにおいては、ケアに従事する全ての職員に対して質問票を用いた調査を実施し、治療を要する場合は、専門医の受診を勧めています。

## 訪問時の様子



働き方改革の取り組みについて説明を受けました。



千々岩理事長より説明いただきました。



介護リフトについて説明を受け、活用動画を視聴しました。



事業所内保育施設について説明を受けました。



リハビリ施設にて説明を受けました。